令和５年度 学校だより　　令和６年１月３１日

にしはら

２月号

渋谷区立西原小学校

「学校生活で身に付ける力」

校長　曾我　泉

メジャーリーガーの大谷選手から全国の小学校に「野球しようぜ」というメッセージとともにグローブが寄贈されたことが報道されました。西原小学校にも届きました。体育委員会の子供たちが、活用方法を話し合い、休み時間等に取り組みをする予定になっています。

寄贈をきっかけに「さあ　どうしようか」と考える機会をいただけたことにも感謝です。体育委員会の子供たちは、どうしたら「よりよい活用になるか」さまざまな角度で検討するに違いありません。相手意識をもち考えること、トラブルを想定すること、満足度を上げることなどの視点をもって考えることは、子供たちの遊びの中でも大事な視点です。課題発見・解決能力が試されます。さらに、「運営」している間に、新たな課題も生まれることでしょう。それをどう乗り越えていくか、「大谷グローブの活用」というプロジェクトを体育委員会という「チーム」でまさに探究的に取り組んでいくことになりそうです。

経済協力開発機構（OECD）が各国の教育を比較する事業の一つとして行っている国際的な学習到達度に関する調査として「PISA 調査」があります。これは、１５歳の生徒がそれまでに身に付けてきた知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題においてどの程度活用できるかを図る調査です。結果が国の教育政策や教育実践にいかすことができると期待されています。

最新では、PISA2022 が、数学的リテラシーを中心に、読解力、科学リテラシーの３分野で行われました。結果は、日本は３分野とも参加国においてトップレベルでした。前回、読解力がメインで行われた PISA2018 の順位があまり良くなったことが報道されていたことが記憶に残っている方もいらっしゃることでしょう。今回の順位の向上は、学習指導要領における授業改善が進んだこと、ICT 環境の整備が進んだことが要因と分析されています。

問題は非公表ですが、例題を見ると、情報が事実か意見を問う問題がありました。国語の説明文の学習では頻繁に行われているようなことです。実生活と結び付けて、いくつかのサイトを比較し、正しい情報を得るためにどうしたらよいかを見るところは、教科書を使った学習とは異なる点です。でも、情報端末が身近にあることから複数の情報を比較し、情報を得る機会は確実に増えています。

主語や目的語をはっきりさせたり、文の意味を考えたり、推論ができることや文章と図表の対応力、定義から具体的な内容を例として挙げられる力が試されています。

自分で学びを深める中で、日頃の学習を生かし判断できること、それとともに、説明する力を身に付けていったり、周りの人と議論したりする力が大切であると言えそうです。

大谷グローブプロジェクトの取組でも推論したり、説明したりしながら議論することでしょう。学校生活という様々なかかわりの中や日常生活の中で、課題を乗り越えていくことは、学びをより確かなものにしていく機会になることを意識し、子供たちに力を付けていきたいものです。

２月の目標

【生活目標】

寒さに負けず元気よく外で遊ぼう

【保健目標】

室内の換気をしよう

【給食・食生活】

食事の環境を見直そう